

北海道浮魚ニュース

平成 12 (2000) 年度 6 号 (通巻 No.76)

2000 年 7 月 13 日

北海道立中央水産試験場	Tel : 0135-23-8707	Fax : 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel : 0154-23-6221	Fax : 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel : 0138-57-5998	Fax : 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel : 0162-32-7177	Fax : 0162-32-7171
網走水産試験場	Tel : 0152-43-4591	Fax : 0152-43-4593

道南太平洋スルメイカ北上期調査結果

金星丸 (函館水試調査船) により行われたスルメイカ調査結果をお知らせします。

調査期間 : 2000 年 7 月 3 日 ~ 7 月 7 日

調査海域 : 道南太平洋 (渡島半島沖 ~ 日高沖 ~ 下北半島沖 ~ 津軽海峡)

魚体は小さいが群れは濃い

1. 表面水温は、15~19 台と前年よりも 1~6 高め、また'93~'99 年の 7 年平均値よりも 0.1~5 高めであり、特に南茅部沖 (St.1) でかなり高めでした (図 1、2)。また、50m 水温は 6~12 台で前年並および 7 年平均値並みでした。今年は例年に比べ表面と 50m 層の水温差が大きくなっています。
2. CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの釣獲尾数、単位は「尾/(台・時)」: この数値が大きいほど濃い群) は、4 調査点全体では 1.6~36.9 (前年 0.03~3.7) の範囲にあり、かなり高い値でした。また、4 調査点の平均 CPUE は 17.9 であり、1993(H5) 年以降では 2 番目に高い値でした (表 1)。
3. スルメイカの ^{がいとうちょう} 外套長 (足と頭の部分を除いた胴の長さ) は、4 調査点全体では 12~20cm の範囲にありました。また、モード (一番多く釣獲されたイカの大きさ) は 15~16cm であり、1993(H5) 年以降では、かなり小さな魚体でした (表 1、図 1、2)。
4. 今回のスルメイカ調査結果から、道南太平洋海域では、魚体は小さいものの、かなり濃い群れが分布しているといえそうです。これから餌をどんどん食べて早く大きくなるよう期待したいものです。

(文責 : 函館水試 資源管理部)

* 直通電話番号は 0138-57-5997

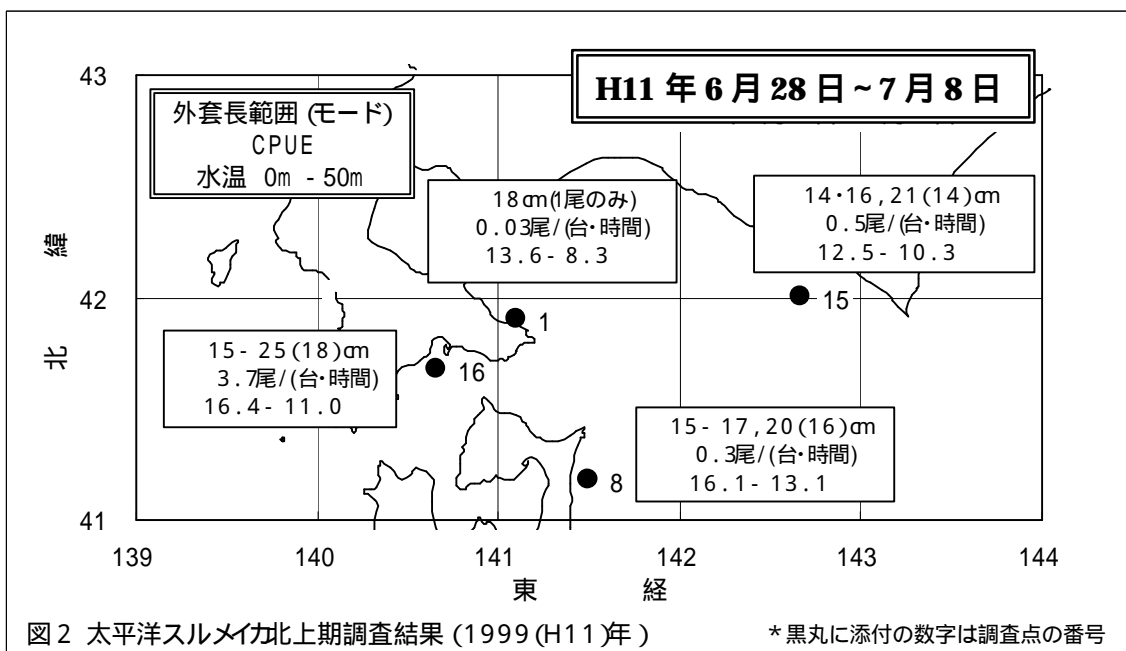
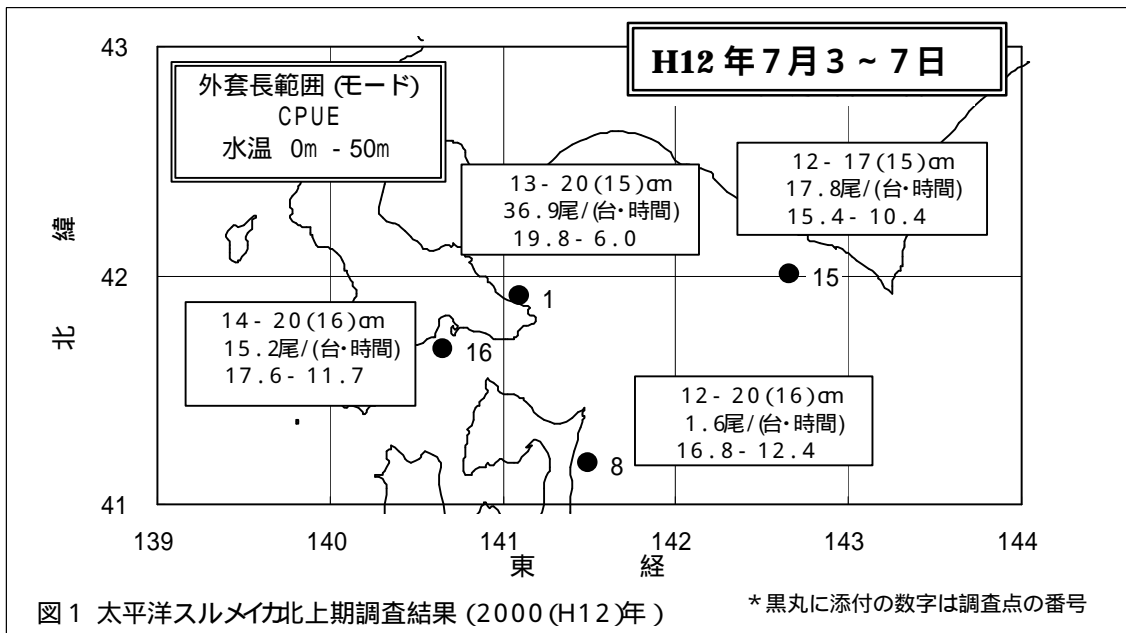


表1 道南太平洋スルメイカ北上期調査時の CPUE と外套長の経年変化

	1993 (H5)	1994 (H6)	1995 (H7)	1996 (H8)	1997 (H9)	1998 (H10)	1999 (H11)	2000 (H12)
4 調査点の	7/13-22	7/11-21	7/5-13	7/4-19	7/1-9	6/29-7/7	6/28-7/8	7/3-7
平均 CPUE (尾/台・時)	6.5	4.3	10.9	7.4	20.0	2.9	1.1	17.9
外套長の範囲 (cm)	9-25	8-29	11-26	11-27	12-26	12-24	14-25	12-20
外套長モード の範囲(cm)	17-19	18-22	16-20	15-19	16-24	15-17	14-18	15-16